

(2015.3) 市民による市民のためのエネルギー革命へ！NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

理事長 弁護士川岸卓哉

福島第1原子力発電所事故から4年が経とうとしています。

原発推進勢力は、再び息を吹き返し、原子力規制委員会が新たに作り出す安全神話のもと、原発再稼働の準備を進めています。これに対して、国民の世論の多数は原発に頼らない社会を求めています。川崎においても、「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員会が中心となって、毎年3月の1000名以上の集会の開催など、多様な反原発運動を繰り広げてきました。

原発に頼らないエネルギーを

私は、弁護士として福島原発事故訴訟に関わる一方、地域の脱原発運動に参加しておりました。そのなかで、原発に反対する運動を展開する一方、自ら原発に頼らないエネルギーを作る運動の展開も必要と考えるようになりました。そこで、20代～30代の若手メンバーを中心に、NPO 法人「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」を立ち上げ、市民出資によるソーラーパネル発電所を作る活動を開始しました。

脱原発のシンボルに

本年2月1日には、川崎市内のマンション屋上で、ソーラーパネルを100枚設置し、約10世帯分の電力を生み出す1号機が無事通電を開始しました。通電式はNHK等のニュースでも取り上げられ、原発に反対し再生可能エネルギー普及を求める市民の声があることを示しました。この1号機は、川崎の市民の脱原発を求める声がつまった、シンボルになるものです。

エネルギーは、本来、大企業による一極集中ではなく、小規模地域分散型の方が、災害に強く、エネルギー効率も良く、経済的にも地域の利益になるものです。私たちの活動は、これまでの大企業の支配と地方の犠牲のものに生み出されるエネルギー構造から、市民の手にエネルギーを取り戻す活動です。

市民による市民のためのエネルギー革命

これは、市民による市民のためのエネルギー革命です。

私たちは、地域に根をはり、原発に頼らない未来を作るために、反対の声を上げる一方で、地域で再生可能エネルギー普及する活動を進めていきます。今年夏には高津区の老人ホームで2号機を建設予定です。川崎区でも屋根をお借りできる場所を探しています。

ご支援ご協力よろしくお願いたします。



完成した市民出資の
ソーラーパネルの前に